

- 1 甲南大学における教育の質を向上させる取り組み
- 2 近年における本学のFD活動
- 3 大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SDセミナー「大学における生成AI活用について考える」報告
- 4 2024年度甲南大学FD委員会活動報告

発行: 甲南大学FD委員会 2025年3月

1 甲南大学における教育の質を向上させる取り組み

甲南大学FD委員会委員長 高 龍秀

甲南学園の中期計画は2025年度に期末を迎え、2026年度から2030年度までの第2次中期計画を策定する作業が大学、中高を含めて取り組まれている。各部署の教授会・教員会議において理事長と学長による説明があり、ブレインストーミングが実施された。この学園の中期計画と連動し、同じく2030年度までのKONAN U. VISION 2030を2025年度に全学的な議論の下に決定する議論が行われている。これら学園・大学の中期計画において、建学の精神である人物教育のさらなる進化と大学教育の質をさらに向上させる取り組みが重要となる。

また、甲南大学は2027年度に認証評価を受審する時期を迎えるので、2026年度に自己点検・評価報告書をまとめる必要がある。第4期となるこの認証評価では、「教育の質を向上させるための組織的な取り組み」を実現させる内部質保証システムが整備されているかが問われることになる。これら様々な意味で、大学における教育の質を向上させ、保証する組織的な取り組みの重要性が増している。この点と関連し、FD委員会の取り組みについて重要と考えられるものを3点示したい。

第1に、教育の質を向上させるFD活動として、各学部・センター・研究科でのFD活動、大学レベルでの様々な研修、大学コンソーシアムひょうご神戸のFD・SD委員会など他大学・他組織と連携した研修などが大学FD委員会から案内されている。これらFD活動を着実に発展させる事が重要となる。各学部・センター・研究科での継続的なFD活動については、毎号の本ニュースに記載されている。また今年2月12日には、大学コンソーシアムひょうご神戸のFD・SD委員会と甲南大学FD委員会の主催で、4認証評価機関の方を招いて「内部質保証の実質化を考える」というFD・SDセミナー

が開催されたが、第4期目の認証評価の内容について、多くの大学関係者とともに理解し、議論できる貴重な経験にもなったと考えられる。これらのFD活動を継続して発展させる必要がある。

第2に、コロナ禍を経て2023年度から再開した授業参観により、実際に本学で行われている授業を参観し、全体の授業構成を体験し、受講生の学習姿勢を見て、参観者が何らかの気づきを得て、担当者にフィードバックする取り組みは、教育の質向上につながるものと言える。2025年度前期に実施予定の授業参観でも多くの参観者が授業を参観し、組織的な教育の質向上の取り組みとなる事を期待したい。

第3に、授業改善アンケートのさらなる活用についてである。2024年度後期から本学の全学部で統一的な授業改善アンケートを実施することとなった。また、2022年度から授業改善アンケートに新しい質問項目「この授業の履修を通じて到達目標に示すどの力が身についたと思いますか?」を追加しているが、この質問への回答を分析し、学部学科等の教育課程改善につなげる必要がある。この質問の回答を学部学科等のレベルで集計する事で、学部学科等が掲げている到達目標について、学生の実感としてどの程度身についたのかが分かり、プログラム全体で学生実感として身についたとの回答が多い到達目標と多くない到達目標が明らかになるなど、学科レベルの教育課程改善にも活用できると考えられる。この授業改善アンケートは授業を履修した学生の意見を直接聞ける貴重なアンケートである。これらを学部学科等の単位で集計するなどの方法で教育課程改善につなげることが望ましい。

多くの教職員の協力で甲南大学の教育の質が大きく向上することを期待したい。

2 近年における本学のFD活動

甲南大学教育学習支援センター

甲南大学では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い2020年度前期よりWeb活用授業を実施し、2023年度に基本的に対面授業を実施する方針が出され、本格的にコロナ禍以前の授業環境に戻る事となった。このように教育環境が大きく変化する中で、甲南大学FD委員会(以下、FD委員会)を中心とする本学のFD活動も今日に至るまで、改善を進めてきた。そこで今回は、近年における本学のFD活動の変遷を概観する。大きくは、授業改善アンケート、授業参観、FD・SDセミナー等の3つに分けて記載する。

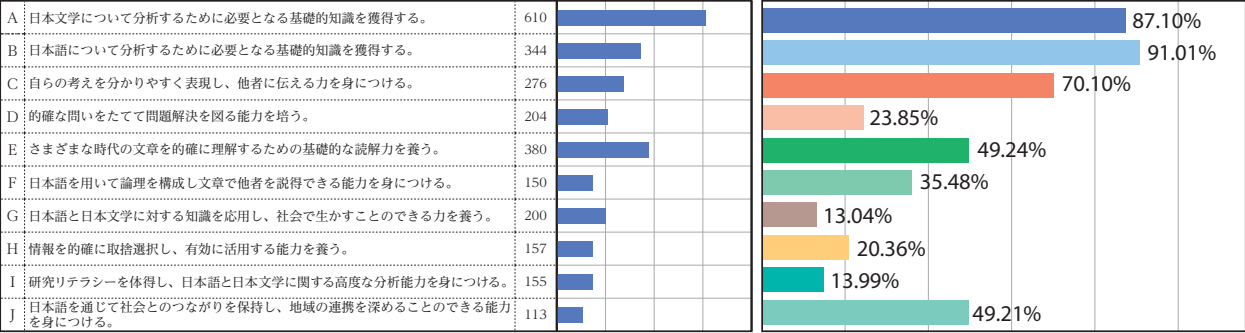
第一には授業改善アンケートである。本学では2019年度

まではマークシートによる紙媒体での実施形態をとっていたが、2020年度からのWeb活用授業開始を契機に、Learning Management System(LMS)を活用したオンラインでの実施形態に移行した。結果として、集計作業等に要する時間は減少した。その一方で回答率に関して、紙媒体での実施時は6割を超えていたが、オンラインでの実施への移行後は5割を上回ることとはほとんどなく、FD委員会の課題となっている。また、実施形態だけでなく、設問にも変更が行われた。具体的には、「インターネットのトラブルにより何回授業を受けられなかったですか?」などのWeb活用授業における授

業改善等を目的とした設問や受講環境に係る設問を9問追加し、授業実施形態の変化への対応を行った。2023年度に原則対面での授業実施方針が示されたことにあわせて、再度、対面授業を主とした設問構成に再編された。また、2022年度より、「この授業の履修を通じて到達目標に示すどの力が身についたと思いますか？」という設問項目を追加し、学位プログラムごとに掲げている到達目標について、学生自身がどの力が身についたと考えるかを把握する取り組みを開始した。学部学科等の単位での集計結果として、“各到達目標に対する

回答総数”と“授業に紐づいた到達目標を学生がどれだけ身についたと考えているかの割合”を提供している（詳細は図1の通り）。今後はこの回答結果のより詳細な分析を行い、教育課程の改善等につなげる取り組みを推進する必要があると考える。あわせて、教学マネジメントの一環として、先ほど述べたようなデータを活用した教育の質保証の一層の強化を図るべく、「甲南大学授業改善アンケートに関する取扱内規」を2024年度に制定し、学内での授業改善アンケート結果の有効活用を推進しているところである。

図1 学部学科等の単位での集計結果（イメージ）



第二には授業参観である。本学では2019年度まで全学的な授業参観をFD委員会にて実施していたが、2020年度以降は感染症の拡大状況を鑑みながら、学部学科等によっては組織内で実施しているという状況であった。そこで冒頭に述べたように、2023年度に基本的に対面授業を実施する方針が出されたことに伴い、全学的な授業参観を再開した。各部局より複数の授業を提供いただき、実施期間の2週間は本学教職員が参観可能として、参観者は担当教員へのフィードバックをMicrosoft Formsより登録いただく形式としている。また実施後のアンケートでは、参加された教職員から多数のコメントをいただいた。以下に抜粋して掲載する。

- 基本的にポジティブなことしかないと思います。(理工学部教員)
- 授業の工夫がとても参考になり、有意義だった。(理工学部教員)
- 他の先生方の授業を参観することは、自分自身の教育のあり方、方法、意義を見つめ直すことにつながります。(文学部教員)

第三にはFD・SDセミナー等である。本学では従来から全学的なFD活動として、アクティブ・ラーニングのような教育改善等に関するテーマをもとに、講演会、セミナー、ワークショップ等を開催してきた。特に2020年度前期よりWeb活用授業が実施されたことに伴い、ZoomやMicrosoft 365といったツール活用のためのFD活動も積極的に行われた。また、本学は2023年度より大学コンソーシアムひょうご神戸のFD・SD委員会の委員長校を務めており、学内教職員を対象としたFD・SDセミナー等の開催のみならず、コンソーシア

ム加盟校を対象としたFD・SDセミナー等の開催にも取り組んでいる。特にコンソーシアムにおけるFD・SDセミナーでは内部質保証やIRをテーマとすることが多くなっている。また、コンソーシアムにおけるFD・SDセミナーの会場として委員長校である本学の施設を提供することが多いが、本学の教職員にとっては対面での参加がしやすく、幅広いテーマの学びを深める機会が提供できている。最後に、直近で実施したFD・SDセミナー等の例を挙げておく。

- 学内
 - 導入共通科目AI・データサイエンス入門に関するFD・SDセミナー
 - 甲南教育学習DXプロジェクトに関するFD・SDセミナー
 - 高等学校における探究学習に関するFD・SDセミナー
 - 大学コンソーシアムひょうご神戸
 - いま一度整理しよう！令和4年度大学設置基準等の改正を学ぶ！
 - 中退予防におけるIR
 - 内部質保証システムの実質化を考える
 - IRの基礎をダイジェストで学ぶ！
 - 大学における生成AI活用について考える
- ここまで述べてきた内容のほかに、大学での学びと一般社会の関係を知る機会を受講学生に提供することを目的とした学外講師招聘制度やシラバスチェックなどFD委員会として取り組んでいる活動は多岐にわたるが、時代に即した教育改革を進めていくために、今後もFD委員会を中心に本学のFD活動を推進していく。

3 大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SDセミナー「大学における生成AI活用について考える」報告

報告者：経済学部 寺尾 建

2024年9月4日に、大学コンソーシアムひょうご神戸FD・SDセミナー主催の「大学における生成AI活用について考え

る」と題されたセミナーが、本学・岡本キャンパス523講義室での対面参加とZoomによるオンライン参加とのハイブ

リッド形式によって行われた。

当日は、已波弘佳（みわ・ひろよし）氏（関西学院大学副学長・情報化推進機構長・AI活用人材育成プログラム統括・工学部情報工学課程教授）による「AIが急激に進化する時代に大学はどのように向き合うか？」と題された報告（以下、已波報告とする）と森木銀河氏（九州大学IR室学術推進専門員）による「大学業務の観点から生成AI利用を考える」と題された報告（以下、森木報告とする）の2つの報告がなされた。

以上の2つの報告について、ここでは、報告の背景と要点、含意と示唆を述べることにしたい。

2022年11月30日、OpenAI社によって「対話型AI」であるChatGPTが公開された。その利用者は、公開後の2カ月で1億人を突破し、ChatGPTは一種の熱狂をもって受け入れられた。それから約2年後の2024年9月時点では、日本では成人の8割以上が生成AIの存在を知っており、その利用率は成人全体の9%に迫っている。現在、世界全体では毎週2億5,000万人以上がChatGPTを利用しているが（ちなみに、知識労働者は世界全体で10億人と推計されている）、日本ではすでに、「就職活動を行う大学生の3割以上がChatGPTをはじめとする生成AIを利用している」との報道もある。こうした状況を受けて、エントリーシートを全面的に廃止して「動画面接」に切り替える企業があれば、「AI面接官」を導入する企業もあり、「就活AI vs 採用AI」という見出しが紙上を賑わすほどである。

セミナーにおける最初の報告であった已波報告は、上で述べたような現況をふまえて、高等教育機関としての大学における生成AIの創造的な活用方法について、生成AIが教育の質を向上させる可能性に焦点を当てた問題提起と提言を行うものであった。そこにおける基礎的な問いは、「教育機関は生成AIが普及した社会でも生き残れる人を育成しなければならないのではないか？」というものである。

ChatGPTに代表される生成AIは、Chatという名が象徴的に示すように、ユーザーによる問いや指示・依頼などの入力に応じてテキストや画像などを出力する対話型の人工知能である。生成AIは、大量の既存の文章やコンテンツを機械学習によって処理することによって、確率的にもっともらしい文章やコンテンツを生成するわけであるが、その性能は、いふなれば、「問われている事項については何も理解していないが、大量のカンニングペーパーを見ながら、とりあえず言葉に詰まらずに回答できる」というものである。それゆえ、教育機関において最も避けるべきなのは、学生・生徒・児童を「問われている事項については何も理解していないが、大量のカンニングペーパーを見ながら、とりあえず言葉に詰まらずに回答できる」という存在にしてしまうことである。

それゆえ、私たち教育に携わる者が目下直面している課題とは、「学生・生徒・児童が生成AIを利用する」という状況を大前提として、学習成果や成績の評価方法の変更・修正を含むかたちで教育内容や教育方法を更新し、そのことが学生・生徒・児童の知的能力を確実に向上させることに結実するように教育を再設計することである。

一般に、生成AIが学習に及ぼす負の影響としては、「学習の受動化（思考力や課題解決能力が低下するリスク）」「“コピー”や剽窃の増加（学術的な信頼性が損なわれるリスク）」「誤情報の取得（誤った知識・概念・認識を得るリスク）」などが典型的なものとして指摘される。

しかしながら同時に、生成AIが学習に及ぼす影響には、積極的に評価されるべきものもある。それはたとえば、「学習の

個別最適化（各自の理解度や学習進度に応じた適切な学習計画の立案）」「知識習得の補助（自動要約・翻訳・解説等による文献読解の補助）」「批判的思考・創造的思考の支援（新しいアイデアの生成による批判的思考・創造的思考の促進）」「レポート・論文作成の支援（文章生成・校正・編集等の支援による表現力・構成力向上の促進）」「学習の効率化（即時フィードバックや疑問の即時解消による学習時間の有効活用）」などである。

実際、2024年12月26日に文部科学省は、小中高校の授業における生成AIの扱い方に関する指針の改訂案（文部科学省初等中等教育局「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」）を公表したが、同指針では、詩や小説の創作、コンクールに出す作品などを作成する際に生成AIを使うことは不適切な活用例であるとされている一方で、英会話の練習相手とすることや各自の学習進度に合わせて教科書の解説を出力させることなどは適切な活用例とされている。

（現時点で）生成AIが最も得意とするのは、定型業務の処理であり、「拙速は巧遅に勝る」ということが評価基準となるような、正確さや完成度よりも処理・対応の速さが相対的に重視される業務である。したがって、生成AIは、その“A”が、それを利用する者にとって、ArtificialのみならずAssistantやAgentとしての的確に位置づけられるときにこそ、その効果を最大限に発揮するのだということである。

いま述べたことは、学生・生徒・児童のみならず、教育に携わる教職員についても、むろん当てはまる。それはたとえば、教員の定型業務について述べれば、「教材作成の効率化（講義資料等の作成の自動化）」「学生の理解度把握の効率化（学習履歴・学習成果の即時分析による学生の理解度の即時把握）」「フィードバックの迅速化（大量の課題の効率的な採点・評価）」「対話型指導の拡充（定型業務を生成AIに任せることによる対話・対面型の指導時間の確保）」「研究支援（先行研究の探索・要約の自動化やリサーチクエスチョン設定の支援などによる研究活動の効率化）」などである。また、同様のことを職員の定型業務について列挙すれば、このたびの森木報告において詳細かつ具体的に示されたことであるが、「学生支援の自動化・個別化（履修登録・成績照会・奨学金・就職支援などの定型的な学生対応業務の自動化・個別化）」「文書作成・業務報告の自動化（公文書・企画書・報告書・引継書・通知文書・案内書・メール等の草稿作成や議事録の自動生成）」「ウェブサイトやSNS更新の自動化（プレスリリース・イベント情報・研究成果の公表等に関するコンテンツの自動生成）」などである。

生成AIとは、「壁」である。「壁打ち」の相手（AssistantやAgent）として正しく位置づけられるのであれば、生成AIは、それを利用する者の知的能力と創造性を向上させる。しかし、「壁打ち」の相手として位置づけられない場合には、生成AIは、ただの「壁」にすぎず「障害物」にしかならない。この比喩からさらに示唆されるのは、生成AIが露わにするのは、大学においては、教育研究活動とそれらに対する支援業務に関する構成員の理解度にほかならないということである。その理解度とは、AssistantやAgentに委任すべき活動・業務とそうでない活動・業務を正しく識別できるか否かを決する種類のものである。それゆえ、生成AIは、それを使いこなせる大学とそうでない大学——その構成員が自分たちのなすべきことを正しく理解している大学とそうでない大学——とを峻別するテクノロジーであり、その意味においても、画期的であるといつてよい。

4 2024年度甲南大学FD委員会活動報告(2024年4月~2024年12月)

○4/2 新任教職員ガイダンス
○5/10 第1回FD委員会
○7/9~7/22 前期授業改善アンケート実施

○10/18~10/31 授業参観
○12/17~1/10 後期授業改善アンケート実施
○12/13 第2回FD委員会

《学部・センター・研究科の主なFD活動報告(2024年4月~2024年12月)》

〈文学部〉

○6/5 「横断演習」と文学部教育
○6/26 「授業参観」と文学部教育
○9/25 文学部リンクプログラムの更なる向上をめざして
○12/11 授業改善の工夫と仕掛けを学ぶ

〈理工学部〉

○4/10~5/14 教員相互の授業参観
○4/11 高圧ガス安全講習会
○5/13 放射線業務従事者教育訓練
○6/6 教員相互の授業参観
○8/1 カリキュラムに関する課題と工夫についての意見交換
○9/4 学生を交えた意見交換会「大学での学びの方法とその成果」
○9/4 理工学部FD活動「各学科におけるカリキュラムに関する課題と工夫」
○10/10 液体窒素安全講習会

〈自然科学研究科〉

○4/11 高圧ガス安全講習会
○5/13 放射線業務従事者教育訓練

〈経済学部〉

○6/19 「経済学部2023年度ベストレクチャー」選出
○9/11 「経済学部2023年度ベストレクチャー」事例報告

〈法学部〉

○5/20~6/2 授業アンケート
○7/5 法学部授業アンケート(中間)結果に基づく授業参観
○7/23 FD懇談会
○11/4~17 中間授業アンケート
○12/12 授業参観
○12/17 FD懇談会

〈経営学部〉

○6/25 2023後期授業改善アンケート報告
~2022後期との比較~

〈知能情報学部〉

○4/23 成績不振者に対する特別指導の報告
○9/24 授業改善アンケート結果の活用
○12/23 FD講演会

〈マネジメント創造学部〉

○7/3 高等教育のトレンドをテーマとしたワークショップ
○9/25 授業改善アンケートを用いた授業改善案の検討について
○10/30 Collaborative Online International Learning

〈フロンティアサイエンス学部〉

○4/4 安全講習会(高圧ガス安全講習、試薬安全講習、研究倫理講習)
○5/31 2023年度ベストレクチャーの授業参観
○6/17 授業参観に基づくFD研修会

〈フロンティアサイエンス研究科〉

○4/4 安全講習会(高圧ガス安全講習、試薬安全講習、研究倫理講習)

〈グローバル教養学環〉

○5/7 他 計5回 STAGE演習内容の検討および学生への指導
○9/24 授業改善アンケート結果について

〈全学共通教育センター〉

○4/9 他 計8回 共通基礎演習について
○4/9 他 計15回 スポーツ・健康カリキュラム委員会
○6/11 英語分科会
○6/18 第2外国語分科会
○7/16 国際言語カリキュラム委員会
○9/10 授業改善アンケート結果について、合理的配慮についての理解を深める
○9/10 他 計6回 基礎共通カリキュラム委員会

〈教職教育センター〉

○5/13 授業改善を図るための検討会
○10/28 授業改善を図るための検討会

〈公認心理師養成センター〉

○6/25 心理実習・演習に関する動向の共有

さらに詳しい情報・報告はホームページへ！

甲南大学トップ ▶ 甲南大学について ▶ 甲南大学のFDへの取り組み

問い合わせ先

FD委員会ではFD活動やFDニュースについてご意見・ご要望を受け付けています。
全学教育推進機構 教育学習支援センター TEL078-435-2592(内線2812) MAIL lucks@adm.konan-u.ac.jp